



### ○たすけあいの会は今年25周年を迎えました

コープくらしのたすけあいの会は今年で結成25周年を迎えました。コロナ禍の中で迎えた2021年のリニューアルから3年目、たすけあいの会への期待が高まる中で一層の飛躍をめざして、6月8日(木)「コープくらしのたすけあいの会25周年のつどい」を開催しました。コープあおもり本部(青森市)を主会場に、八戸・弘前・むつの3市にサブ会場を設けたハイブリッド開催とし、全体で61名が参加しました。

嶋田順一県生協連常務理事より開会挨拶がされ、青森県環境生活部長、青森県社会福祉協議会など各団体のメッセージが紹介されました。続いて、青森県立保健大学社会福祉学科児玉寛子教授が、「たすけあい活動は地域のつながりづくり」と題して講演しました。児玉先生は、自らも介護現場の経験があり、たすけあい活動についてもよく理解し、調査・分析し、評価とともに課題を示していただきました。たすけあいの会のちょっとした手助けから生まれる安心感、制度だけでは支えきれない部分をカバーする活動は、誰もが安心して暮らし続けていくための無くてはならない活動として、地域の支えあい・つながりづくりの活動となっています。地縁・血縁だけではどうにもならない、たすけあいの会のような「ゆるいつながり」が大切なセーフティネットの役割を果たしています。この活動を更に発展させていくために、会員の抱える課題の可視化や専門機関との連携などで活動の質を高めていくことが重要だと話されました。



次に、活動4地域の利用会員、活動会員の声を紹介されました。利用会員さんからは、「とても助かっている、活動に入る日を心待ちにしている。」など感謝の言葉が、活動会員からは、「特別なことをしている意識はなかったが、やっていることは間違っていないのだと確信できました。」「お互いにウィン・ウインの関係でこれからも支えあうように活動していこうと思っています。」などの感想が出されました。

最後に、三浦雅子専務理事より、「県内のどこに住んでいてもたすけあいの会があって良かったと言われるよう、さらにたすけあい活動を広げていきましょう。」と閉会の挨拶がされました。



## ○25周年のつどいに寄せられた会員の声

### ○利用会員Aさんより

元気な時には大畑の寺まで行っていましたが、今は自分ではいけないので、代理でお墓の掃除と草取りをしてお墓参りをさせていただいています。行けないのが気になってたすけあいの会に頼みました。とても良くしていただいて感謝しています。また、お買い物もしていただいて大変助かっています。これからも掃除などもお願いしたいと思っています。また、よろしくお願ひします。ありがとうございます。



### ○利用会員Bさんより

私たちは毎日いろいろな困ったことに出会いながら生きているんだなあと、今つくづく思っています。まるで障害物レースのような一日を私は過ごしています。血液の難病とその合併症の肺の病気、さらに薬の副作用による脳出血の後遺症のために、日々の生活が難しくなった7年ほど前、幸せなことに「コープくらしのたすけあいの会」に出会いました。現在、コーディネーターさんと活動員の方々が私のサポーターであり、寄り添って下さるレースの伴走者です。日々の生活への支援は、食事と掃除、片づけ、草取りと多岐にわたっていますが、会の名前のように、つまづいたくらしの一つ一つを助けて下さいます。更に、お助けの現場にいつも流れる「やさしさ」が、この会の特徴だと感じています。お陰様で、身体は辛いのですが、気持ちは元気に過ごさせていただいております。たすけあいの会本部事務局の皆様、いつもありがとうございます。お助けを願ひ出る人たちを直接支えて下さるコーディネーター様と現場活動の皆様、いつもありがとうございます。

